2017 年 08 月 26 日・国際ロータリー第 2790・2017-2018 年度・

クラブ委員長セミナー・

「日本との絆」

ブサコーン・ホンヨック・タンサガーサクツィー

本日は国際ロータリー2790 地区クラブ委員長セミナーにお招きしていただき、本当にありがとうございます。

先ほどにもご紹介いただきましたように第 2790 地区との出会いは昨年の 10 月の第 2580 地区の沖縄での IM 会議に出席致しましたあと、東京での 3 者懇親会にも呼ばれまして、そこで富委員長様石田様とお会いしましたのが、今回の導かれたご縁でした。

本日のお話についてはまず最初に日本での高校時代から大学を経て就職するまでの話をさせていただき、続いてタイに戻ってからの活動、そして最後にロータリーの奉仕の心を活かしてチャレンジしていることについてお話させて頂きます。

初めて来日したのは 1991 年に交換留学生として、でした。

そのときはＡＦＳと言う交換留学生制度で高校時代に 1 年間海外へ行って、異文化体験をして、色々な価値観があることを身をもって理解し、そうすることによって世界の平和につながる事を期待して設立されたボランティア団体です。

その一年間何もかもが新鮮に見えました。高校に通って、色々な活動を通して日本人の良いところをたくさん見ることが出来ました。その一年は勉強というより周りの人たちから学問以外のことを学ぶことが多かったように思います。学校の体育の時間・部活などを通して日本人の勤勉さ・努力家のところを学びました。ピンチだったのはマラソンと山登りでした。でもそこから我慢すること・辛抱強くがんばることの大切さを実感しました。集団入浴もびっくりしましたが「郷に入れば郷に従う」ということで頑張って入りました。また、せっかちな自分にとって心のゆとり・心に余裕を持つことの大切さを感じさせてくれたのは茶道・花道・書道の時間ですね。やはりあのときの気持ちは長かった貴重な一年間でした。

タイに帰国した半年後にホストファミリーの親がタイまで来て、タイの高校を卒業したあと日本の大学に入らないかと勧めて下さいました。色々考えて断ったのですが、やはり日本の両親の気持ちを大事にすると共に日本語を勉強するなら、タイの大学で勉強するより、日本で勉強した方がはるかに良い結果が出せるでしょうという結論で再び日本へ戻ることになりました。

そして、再び戻ってきたのはいいのですが、大学に入るために最初の一年は研究生になり、外国人のための日本語能力試験と統一試験を受けなければなりません。日本の父は交換留学生時代から皆と一日も早く話せるようになるために毎晩日本語を教えてくれました。テストまで自分で作って、最低 80 点以上を取らなければ部屋から出てこなくてもいいと厳しかったのです。とにかく受験勉強と日本語の勉強が、きつくてプレッシャーがかかりましたが、念願が叶いまして合格し、正式に島根大学

の学部学生になりました。大学での勉強は日本語も理解しなければなりませんし、それぞれの授業内容もわからないといけませんので、厳しい勉強が続きました。

一年生のときは毎日のように授業中に録音した先生の言葉を家でもう一回聴きなおして、少しでももっと分かるようになりたい、先生が黒板に書いたくずしてる字でさえ、読めなくて苦痛でした。二年生になると大学のある教授に「あなたの文章は小学生並みです。何とかしないとこのままでは卒業論文を書くときに響くでしょう」と指摘され、特別指導を受け、毎週定められた小説を読んでレポートを書かねばならなかったのです。始めの頃は真っ赤に訂正されたページばかりが戻ってきましたが、だんだんと白いページが増えて嬉しく思いました。最初に厳しく言われ悲しかったのですが、その後、あの時先生に叱られなかったらこのように文書を書くことが出来なかったでしょうと思いました。3 年生のときは 1-2 年生のときに履修科目の単位をすべて取得してしまったため、授業がぐっと減りました。4 年生は米山の奨学金を頂いたお蔭で安心して卒論一筋で無我夢中になって、めでたく計画通り卒業しました。ちなみに卒業論文のテーマは「男の心と秋の空」についての諺に関する歴史的変化を文学観点からみた内容についてです。

本題に戻りますが、ロータリー米山奨学金との出会いはこの大学の 3 年生のときでしたが、書類選考で選ばれなく 4 年生にもう一度チャレンジして、インタービューなどを受けて、最終的に頂けることになりました。

ロータリーとの出会いは社会人入門の勉強のような・小さな訓練を受けることができたように思います。Discipline という規則や時間を守る、社会人になる第一歩で責任という言葉の大切さを自覚することを学びました。例会に出席すると服装、名刺の渡し方・置き方・挨拶の仕方など、大人の世界を垣間見ることができました。こういったような経験をすることで自然と礼儀正しさなどを身につけることが出来たことは、ロータリーつながりから学んだ素晴らしい体験です。

卒業と同時にホストクラブである出雲中央ロータリークラブの方のご紹介で県の国際課から当時タイ国とのそろばん交流を進めていた横田町（現在の奥出雲町）からご縁があって仕事を頂き、卒業して島根県横田町役場へ国際交流員としてお手伝いに行きました。

タイ国とのそろばん交流のきっかけについては横田町民が恵まれないタイの東北地方の中学校の子供たちに奨学金援助・里親制度を支援したときから交流がスタートしました。

タイの子供の計算力・暗算力・集中力を高めるために、このプロジェクトは全国規模になり、わたしはそのテキストの翻訳やタイへ出かけるときの研修通訳などで国際交流員として同行しました。

横田のお手伝いしていた 3 年間は国際交流のイベントなどにも積極的に参加してました。小学校への交流や講演会・料理教室など週末を利用して参加してました。

また、時間があるときはボランティアで日本の里親とタイの子供間のやりとりの手紙や報告書の翻訳をしたりしてました。

国際交流員のお手伝いは 3 年が経とうとしたときに、やはりそろそろ帰国したらどうかと母からも言われ、帰ることにしました。

結婚のときは嬉しい事に日本から世話クラブ・役場の教育長・県の国際課・交流の深い小学校教職員全員・役場の上司や同じ課の方々や大学の指導教官・AFS 関係・日本の両親と姉家族全員、総勢１００名を超える方々が披露宴に皆様の自費で出席する為にはるばるタイまでお越しくださいました。何とも言えないありがたい話です。

島根で過ごした足かけ９年間で、言葉がわからず辛い思いもしましたけれども、一方でこのように一生の思い出となる素晴らしい経験が出来ました。

さて、2001 年に帰国してから当時タイの松下電器、今のパナソニックの販売会社の社長秘書として入社しました。9 年間を留守してた空白・タイの高校生のままで止まっていたタイ国・日本人の仕事の仕方と違ってどことなくしばらくギャップを感じてました。特に日本人の勤勉さ・努力家のところが戻ってきてよく違いを感じます。

今でもよく思うのですが、人生のいい時期に日本で育ったからいい影響を受けることができ、コツコツと努力してがんばるという言葉の重みを実感できます。なぜかというと日本人はそのことを実践して示してくれるため、常に見ていて自然とお手本となり、力がわいてきます。

社長秘書の仕事は本当に様々な人を見ることが出来ます。主な仕事はもちろんスケジュール管理・社長に関わること・VIP 接遇のお手伝いをすることと、通訳・翻訳です。

またパナソニックが進めている皆の暮らしがよくなるに連れ、世界も良くなっていくことを期待し、社会奉仕活動~~事業~~をしてます。その中で植林活動や環境境教育として社員が出かけて教えに行ったりしてます。また社会貢献として、ボランティア翻訳をしたり、大使館・大学からの要請で子供たちに日本や島根県について話に行ったりなどもしてます。

今まで 5 人の社長のお手伝いをしてきましたが、お蔭様でためになる経営の見方・考え方を間近でみることができます。それぞれの社長の良いところをみて、勉強になります。広い目で・全体の物事をみることができるようになりました。

長い間勤めたせいか、よく社員からいろんなことを相談されます。今の社長いわく「万相談屋・会社の赤十字」と言われてます。異動の話などはいろいろありましたが、断りました。

やはりよく考えました。自分としては見えないところでもかまわないのですが、やはり今の立場の方が一番貢献できて、役に立つような気がします。縁の下の力もちになりたいのです。

社長秘書でありながら、社員に信頼されて話しに・相談にくる人の困ってることを聞いて、色々な考え方や方法を導くことによって、より早く解決できると同時に正しい情報・大きな問題に発展する前に社長へ一報する・報告出来るポジションにいる方が会社により貢献することができると信じてます。早い解決ほど会社にとっていいことですし、正しい情報をタイムリーに報告することは重要なことだと思います。また上に報告・相談したあと、正しく社長の思いを社員に伝えることも大事と思います。自分の中ではこれも小さな職業奉仕と思ってます。

職業奉仕は私の理解ではやはり自分自身の職業に誇りと自信を持たなければ毎日やり続けることができないと思ってます。

これに関係してるのはロータリーの決意の 4 つのテストについてですがなぜか大学時代の例会に出席させていただいた度に会員の皆さんが口を揃えて唱えてたのを鮮明に覚えてます。

そのときはあまり深く意味が分からなかったのですが、実際に仕事するようになってからは多いに大事なことだと感じます。

特に社長秘書をしてますため、もちろん普通の秘書何ですが、社長という言葉が秘書の前に付くとより一層重い責任も付いてくることと思ってます。秘書をつとめて 17 年目に入りますが、その間いろんな秘書を見てきました。社長秘書なのに自分が社長かのように勘違いして態度に出てしまう悪い例にたまに出会います。昔はかんかんに怒ってましたが、最近は年齢のせいか落ち着いて反面教師としてみることができました。

でもやはり、社長は会社全体の重大な責任を背負ってる人なので先ほども話しましたように社長に対しての報告などには気をつけるようにしてます。その報告は「真実かどうか」「皆に公平か」「皆のためになるかどうか」と大いに配慮すべき事項ではないかと思います。何かの理由で近寄ってくる人がいれば、ただおだてる人もいます。社長の耳に入れてもらいたいのでこちらを仲介に使おうとしてる人もいます。何年かつとめてると見分ける、判断することができるようになり、自分の立場で対処できることはその場で済ませ、社長に報告し、聞き流しながらちょっと心の中に要注意のメモをすることできるようになりました。

会社の松下幸之助創業者のお考えを勉強するとロータリーの考え方によく似てるなと思ってたところ創業者がロータリアンだったこと偶然にも知りました。よく見ます創業者のスーツに社員のバッジの横にロータリーのバッジがつけられてます。それをみてとても嬉しかったです。

ロータリー米山奨学金もその実践をしてますね。

ロータリー米山奨学金は 2017 年度に至るまでおよそ 123 カ国の約 19, 808 人の奨学生を世に送り出し、その後それぞれの人生を世界の各地で歩んでることになってますが、間違いなくその 19808 名の中の幾人かがいろんなかたちで知らないところで社会貢献をしていれば、良い考えを持ってれば、この上ない貢献・人材育成をしてこられたことになってると強く思ってます。もちろん最初から見返りの計算などお考えではないのですが、こういったようなかたちで少なくとも全世界に米山奨学金は良い人材を送り込んで、元米山奨学生は少なくとも日本に対する気持ち・日本人のよさを学んで、母国へ帰って頑張ってる人がたくさんいるということを皆さんにお伝えしたいです。国を越えての絆ができたと思います。最近のフェスブックとかありますが、自分もその一人ですが、そういうのは苦手なのでいろいろと載せたりすることが器用でないのですが、そういう人もたくさんいて、どこかで頑張ってると思ってます。

もちろん、たくさんの留学生の中からどんな面談を行なって選んだ奨学生でも、その中には何も考えない人もいれば、行動に変えてやる人もいます。100 出して、100 で戻ってくるわけないとわかって来ましたし、１＋１が３になる人もいれば、0 になる人もいます。

タイで学友会を設立しようとしたときでもそう感じました。すぐ返事して応えくれる人もいれば、無言のままの人もいます。でもそれはその人の心持次第ですので、仕方がないことと思いますし、それ

ぞれ都合があり、人生の岐路に立ってる時期であるかも知れないので、出来る人からスタートしようとしました。

2012 年のバンコクでの国際大会に向かって学友会創設の準備会議が着々と進み、めでたくその翌年に大集合ができました。

学友会設立したあと、いろいろな役員の選挙などがあり、7 名の役員で運営をし、私は初代幹事として勤めました。その２年間は 3 ヶ月に一回の役員会の運営や議事録また報告書・原稿書きなどのお手伝いをしてました。タイ学友の活動については写真を見ながら、またのちほどご報告致します。

タイ学友の活動はまだ小さな活動ではありながら、こういったような地道な活動をしていきたいと思います。やはり、長続きするためには無理のない活動・ニーズにあったものを提供していくことだと思います。

続いて最近の、自分の社会貢献活動・奉仕活動の出来事とそこから学んだことを紹介致します。

2014 年には役場を退職して以来久しぶりに、島根県のお手伝いすることができました。これ役場時代のつながりではなくタイパナソニックグループの別の会社の副社長から電話を頂き、今度僕の同級生が来るんだけど、その人は島根県庁・観光関係の仕事を務めてるので、今度はタイで観光フェアをやるから島根県をタイの人に PR したい、どのようにたくさんのタイ人に来てもらえるのか、確かあなたは島根県出身だよね。一緒にきてくれないと軽く誘われて、島根県ということでしたからすぐ飛び上がってもちろん喜んでお手伝いしますよとこちらも軽く引き受けました。

そして、会ってからこんなに日本語ができるなら、来月バンコクでイベントがあるので手伝ってもらえないかとまた軽く言われましたから、どんなことかわかりませんが、いいですよ。お世話になった島根県ですから何がなんでもお返ししたい気持ちだけでまた軽くお返事をしてしまいました。

その 2-3 週間後、何があったのか急に社長宛で知事様の依頼書で知事の同行と通訳をするようにと大きな県の判子が押されている正式な依頼書が届きました。大変な役目を引き受けてしまったことに良い通訳ができるかどうか不安を感じましたが、島根のために何かできると思うとうきうきして喜んでお手伝いしたいと思いました。最初の日は表敬訪問等に同行して、本番の島根県とタイ国の工業大臣との覚書締結の通訳や夜の懇親会での県議長様などの通訳も務めました。

やはり職業奉仕として自分が得意としてる分野・通訳のお手伝いが出来るなんて大変嬉しいことです。（もちろん謝礼は受け取らず、お断りしました。）島根県民の手で育てられたお蔭でこのようによい人生を送ってますから感謝の気持ちでいっぱいですと知事様に島根県民へのお礼のカードと自分が出雲中央ロータリーでお話させて頂いた内容を載せてくれたロータリーの友の 2 ページ分のコピーをお渡し致しました。そのときはちょうど島根大学の学長もおられましたので、4 年間授業料免除をしていただいたことの御礼もお伝えすることができました。皆さんが私に投資してくださったことが実り、利子として受け取っていただければとお伝えしました。こんな素晴らしい職業奉仕の機会はめったにもらえない機会と思いました。知事様が帰国されたあと、お礼の手紙を頂きました。直筆でしたので、大事に保存しております。

その縁で昨年の2月にまた知事様から社長への依頼書が届き、タイの工業省副大臣が知事表敬訪問や日本古来たたら製鉄の見学をされるので、副大臣のご同行と通訳の依頼を受けました。こんな光栄な機会をまた与えていただいて、信頼してくださったことに嬉しくて誇りに思います。

その一月のお手伝いが終わったあと、引き続き2月にこの東京のRI2580地区の地区大会にHomecomingとしてお話に参りました。その大会の3日間で会長幹事会・新入会員昼食会・本会議・米山奨学生期間終了式・米山梅吉記念館にて、計5回スピーチを致しました。その大会の前の連絡のとき、もし可能であればと、一つのお願いを致しました。せっかく東京地区に行かせていただくのなら、ずっと気になってた奨学金の名前だけしか知らない米山梅吉様のことを勉強させてくださいとお願いしました。できれば墓前に手を合わせてお礼をお伝えしたい・拝ませて頂きたいとお墓や記念館へ行かせてもらえないでしょうかとお願いしました。この地区の皆様のお蔭で実現してくださいましたし、そこでまた新たなロータリー米山の大切な部分を勉強することができました。

それは米山梅吉様の生涯を勉強することができました。特に感心があったのは未来を担う子供のために、緑岡小学校（現在の青山学院初等部）を個人のお金で設立の負担をし、校長に就任、週に一回子供たちに聖書の言葉を読んで聞かせ、他人に思いやること、誠実であること、また礼儀正しく言葉遣いを美しくすることなどを説いて、自らその手本を示されたそうです。

その記念館の案内板を読んでいくうちに梅吉校長先生の訓示が目に入りました。7つの訓示の中で特に私が共感をしたのは「五。言語、服装、容儀を正しくすること。六。人に迷惑をかけるな。人にされて嬉しかったことは人にもせよ。」が今でもはっきりと覚えてます。その実践として今タイ学友も金額はまだ少ないのですが、ロータリーから奨学金を頂いたので今度は自分たちのお金で次の世代にも同じことをしてあげよう」と学友の皆も同じ気持ちで奨学金を渡してます。

また、案内してくださった方のお話しによりますと、あんなにお金持ちの方ですからきっと高い食器をお使いなさったでしょうと皆さんは思うかもしれませんが、とても安いものを使っておられて、実物も展示されてます。

やはり、本物の偉い方は謙虚で質素ですね。ご案内のように米山梅吉様が残されたお茶碗の価値はたいしたものではないかもしれませんが、私から見ると今現在残していただいたこの米山奨学金制度は、多くの良い人材を世界中に送り出したことで数値（金額）では表せない素晴らしい財産をこの世に残してくださってることになります。

もう一つ勉強になったのは米山梅吉様はよく人に名刺入れをプレゼントされてたそうです。なぜかというと名刺は自分の顔と同じで常にきれいにしないといけないそうです。「Keep your name clean」はもちろんいろんな意味で「自分の名前を常に清潔に」しなさいということを聞いて、大学時代、この出雲中央ロータリークラブの皆様がどのように名刺を出され、丁寧に渡して丁寧にもち、その人と話してる間はテーブルに置いて話されたことなど、鮮明に思い出されます。その上品さ、そのエチケットなどまさに私がロータリーから学んだ大切なことの一つです。米山梅吉様の時代からこういう良い伝統・良いメンバーの集まりから始まったのですね。あれ以来自分の名刺を今までより大事にするようになりました。

また元ロータリアンの松下幸之助創業者の教えを引用してばかりではどうかと思いますが、ためになる言葉でシンプルでロータリーの思いと通じてるところが多く分かりやすいですから引用させてください。「商いのこころ」からの抜粋です。

物が動いて、お金が動いて、それで一応、商売は成り立つ。

しかし、もう一つ、根本的に大事なことは、物やお金と共に人の心もまた、これに乗って移り動いていかなければならないということである。

単に物を作り、物を売り、そしてお金を得ているというだけなら、商売とはまことに索漠としたものになってしまう。

物と合わせて心を作り、物と共に心を売り、そしてお金とともに心をいただく。

つまり物やお金が通い合うだけでなく、お互いの心と言うものがその間に通い合うことがきわめてたいせつなことなのである。そこに商売の真の喜びや味わいと言うものがある。

松下幸之助は、素直の心の扉を開き、日々反省と努力を重ねるならば、必ず商いの扉も、新しい道も開くはずだと信じていました。幸之助にとって、それが商道の一歩であり、商売人としての喜びや感動に繋がることを誰よりも体験していたからです。

「そういう感動はですね。随所に起こる。考えてみれば、いたる所にそういう感動の状態があるんだと。心してみるならば、全部が感動を与えれるような場面がみなあるんだと。一日に何回、１年に何回といわずあるんだと。

それを感動として受け取るか、感動として受け取らないかということによって、違ってくる面も、私はあろうかと思うんであります。そういう形において商売をしていく、あるいは会社を経営していくということが、極めて大切なことやないかと思うんです。」

これをロータリー米山奨学金に置き換えて例えるなら、その奨学金つまりお金と一緒に日本のロータリアンの心が共に奨学生の手に尊く届けられます。今の金額ならただ 10 万円、14 万円のお札だけが動いてるのではなく、ロータリアンの心がこれに乗って移り動いていってます。ですから奨学金が手から手へ通い合うだけではなく、それを頂くことによってお互いの心と言うものがその間に通い合うことが極めて大切なことということです。またカウンセラーの大切な時間を奨学生にわけて頂いてありがたく思わなければなりません。この年齢・今の仕事をしてる自分はどれほど時間が大切なものか、身にしみるほど分かってます。いつも奨学生にお話するときにお伝えしたのは

日本での思い出・日本で習った有形無形のモノを人生の尊い良い材料として、それを土台に次の活動へ活かしてもらいたい。また日本で過ごした時間を活きた時間にするのか、一年間頂いた 144 万円を感動として受け取るかはそれぞれの心持ち次第ですが、よく考えて欲しいですと伝えます。

残念なのは日本の父は 7 年前に他界しました。今年の 5 月に 7 回忌で島根へ里帰りしました。亡くなる 1-2 年は病気で弱ってまして、その姉たちの連絡をうけて、年に何度か通って、お見舞いにきました。その厳しい日本の父はいつも褒めてくれないのですが、一つの思い出として卒業したときは卒業

生・修了生の全学の総代を務めたことに「お父さんは鼻が高いよ」と言ってくれました。喜んでもらえることが本当に嬉しかった出来事のひとつです。

また日本の母はよくこの話を今でも皆で集まるときに話します。

「あんたがＡＦＳの交換留学生で初めて島根県にやってきた日に、他のホストファミリーは花束を持って、それぞれが受け入れる留学生を迎えたけど、うちは何も持っていかなかったので可愛そうだった。今でも心残りになってるのよ」と。

そう言えばそうだったかも知れませんが、私はまったくその事について覚えていなかったのですが、今は日本の母にもタイの母にも日本のロータリアンや今までお世話になった皆様にもお伝えしたいのは「もう充分私の人生の道に花を咲かせてくださったのです。花束なんか必要ない、皆さんの協力と支えがあったからこそ今日の私があります。これからも見守っていてくださいね。」と伝えたいです。

これからもロータリーの奉仕の心を活かして・職業を通して奉仕ができるように、やはり毎回の奉仕を通じて自分の進歩をも感じますし、これからどのように自分が成長していくかが毎日のチャレンジですし、楽しみでもあります。最近は 40 代になったせいか違う分野をもっと勉強したい気持ちはあります。例えばこの頃 JAL 再生の成功例など偉い方々の人生観を少しずつ学んでます。

この稲盛様の国への奉仕を心から感心しております。奉仕について偉大な方々の生き方から学んだことは「その方々はただ、単によいことをされてただけなのに、最終的にそれが人々のためになり、皆の幸福に繋がった功績が偉大であること」と思いました。

ポール・ハリス様が、112 年前にロータリーを創設したときの目的は人類に奉仕することだと信じて、本日に至るまで全世界のロータリアンの様々な方面での善意の行動に繋がって、あらゆる~~の~~幸福を全世界にもたらしてるこの現在。

米山梅吉様のこの世に残してくださってるロータリー米山記念奨学金事業、どれほどよい人材をこの世界に送り出したのか計り知れない財産。

そして、タイ国民として丁度昨年の 10 月にお亡くなりになりました国王様についてお話させてください。なぜこんなにタイ国民に愛されてたのか疑問に思われてるかもしれませんが、本当に国民のために奉仕されたからです。語り尽くせないのですが、小さいときから恵まれない国民のために常に国の問題・貧困・病気・教育・干ばつ・洪水などと戦い、全国を歩かれた場面を見てきました。この 10 年間はご高齢のためにあまり表にはお出でにならなかったのですが、それでも国王のプロジェクトが次々と発表され、在位 70 年間で 4,000 以上のプロジェクトを発足させられました。

国王の奨学金プロジェクトも大きな 3 つのプロジェクトがあり、どれもすべて条件なしです。もちろん試験は難しく簡単に合格するものではありませんが、奨学期間が終わったら、皆の心持ち次第でどうするのかは自分で考えるようにと仰っていたそうです。これもロータリーと同じです。

ですからロータリーが培った人づくりは間違いなくいろんなかたちで善意の行動につながってると確信してます。奨学会の紹介のとおり「広がれ人づくりの輪」はそのとおりだと思います。よいことをするのは簡単ではありません。分かってくれる・実るまで時間がかかりますし、その間での努力と辛抱を擁します。でも間違いなく、世界中にロータリーはあちらこちらで花を咲かせてます。なぜかと

いうと皆さんの心が入ってるからです。私から見るとよいことをするために大切なことは「心がそのことに入ってるかどうか」にかかわると自分は思います。心が入ってればいくらでも頑張られると思います。結果がどうであれ、見返りを考えてない。これについても国王の教えがあり、その通りだなと思いました。「国の中にはよい人も悪い人もいる。誰も皆をよい人にするのは無理なんだが、社会を安定させるためには全員をよい人にするのではなく、よい人をサポートして後援し、その人を社会の指導者にし、悪い人を抑えて人に迷惑するような悪いことをさせないようにするのがいい」と 40 年以上前の教えが今でも通用すると思います。

また、もうひとつ タイではお寺にお参りするとき仏像に金箔を貼る習慣があるのですが、 国王からの教えは「仏像の前の目立つところに誰もが金箔を貼りたがるのですが、誰にみられなくても仏像の背中にも貼ることで仏像全体をきれいにできるのです。そしてたくさん貼った後いつかその金箔が前に見えてくることもある。つまり、よいことをして誰に見えなくてもいつかどこかで見えてくるし、社会全体がよくなって、皆の幸せにつながるのです。だから私と一緒に仕事しても何もあげるものはないのですが、皆・人々のために奉仕や仕事をすることでその幸せを感じ、喜びを分かち合いましょう」と枢密官や側近の方々に語られたのは有名な話です。

ちょうど本日は財団設立 50 周年記念事業として熊本にてイベントが開かれてます。日本から羽ばたいた米山の奨学生が世界中から集まります。彼らはこんな素晴らしい日本国で育てられたのですからよい子に~~が~~育ったと信じてますし、私も育てられた一人としてロータリーの「人への思いやりの心、サービスの心、ボランティアの心、職業奉仕の心」を忘れずに頑張っております。そして、丁度島根県ではあと 2 ヶ月で神在月ですが、出雲大社の「運は一瞬・縁は一生」という PR のはり紙をみてその言葉通りこれからもすべての出会い・ここでできた絆を一生大切にして、頑張って行きたいと思います。

今後も学友の活動を通して温かく見守ってくださいますようお願い申し上げて、本日のお礼の言葉と致します。

ご清聴どうもありがとうございました。